

シリーズ講座「ひきこもる人々とその家族への理解を深めその支援を考える」第 1 回

企画：一般社団法人日本臨床心理士会（ひきこもり対策検討班）

1. **研修主旨**：「ひきこもり」は、思春期・青年期から壮年期にわたる長期的な問題として存在しており、その支援には、教育・保健・医療・福祉・労働の各領域からの包括的な取り組みが求められています。研修では、概念や論点の整理を行い、支援の現状と課題について実践家よりお話を伺い、効果的な支援を進めるために、支援者の役割について知見を深めることを目指します。
2. **日 時**：平成 26 年 11 月 8 日（土） 10：30～16：30
3. **会 場**：(財)日本心理研修センター研修室（地図参照）
〒113-0033 東京都文京区本郷 2-27-8-201
4. **参加費**：会員・院生 6,000 円 非会員 7,000 円
5. **募集対象・人数**：臨床心理士・大学院生 定員 50 名
6. **テーマ等**

回	日時	テーマ	講師
1	11/8 (土)	1) ひきこもりケースの理解と支援に関する論点と課題 要旨 ：ひきこもりケースの理解と支援のあり方については多くの論点と課題がある。まず、ひきこもり問題の概念整理と治療・支援における諸課題について整理し、次いで、パーソナリティ障害と発達障害を背景とするひきこもりのメカニズムについて述べる。長期化、高齢化、自殺などについても触れる予定。	近藤直司 (大正大学、都立小児総合医療センター)
		2) ひきこもりの多軸評価システムと重層的アプローチ 要旨 ：「ひきこもり」という現象は個人病理の側面と関係性の病理と呼ぶべき側面が複雑に絡み合った現象であり、bio-psycho-social な観点から総合的に評価し理解する必要がある。一つの提案として、精神疾患、発達障害、パーソナリティ傾向、個々の環境などの特性を評価し、それを包括する形で個々のひきこもりをとらえるための多軸の評価がある。こうした評価システムでとらえた個々のひきこもりの特性に応じたテーラーメイドな支援こそ重層的アプローチに他ならない。	齊藤万比古 (恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター愛育病院小児精神保健科)

7. **研修ポイント** 出席者に各回 2 ポイントを申請する。

8. **申込方法**：①および②をお願いします。

①週日 10:00～17:00 に電話で空席の有無をご確認の上、予約してください。

電話番号：03-3817-6801 事務局

②郵便局の振り込み用紙に、以下の各項目を全て記載して、受講料（会員・大学院生 6,000 円、その他 7,000 円）を申込日より 2 週間以内に振り込んでください。

(なお、納入された受講料は返還いたしません。)

○講座名「ひきこもる人々とその家族への理解を深めその支援を考える」第 1 回

○ご氏名・臨床心理士番号・連絡先電話番号・ご所属

○口座番号 00110-7-413679

○口座名称 一般社団法人日本臨床心理士

一般財団法人 日本心理研修センター地図

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-27-8-201

